

ホーム名：グループホームあおやま2F				
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自己決定を尊重し、その人らしい生活を支える』として理念を掲げたことで、職員本位にならずに必ず入居者の立場になってその方の想いを達成できる関わりに努めている。パート職員の方にも理念を意識して業務に励んでいただけている。	理念はホーム立ち上げ時に、事業母体である青山病院関係者・管理者・職員皆で考えたものである。ホームでの生活の中でのあらゆる場面で、入居者本人の意思を尊重する支援を職員全員で心掛け、実践に努めている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にイズミヤやお菓子商店があり、職員と共に買い物へ出かけていただいている。ただその度合いは高くなく、今後はさらに地域に関わって行く必要がある。今年度より近隣GHの方との集いに参加できるようになった。	自治会には未加入であるが、地域の情報は運営推進会議時に地域住民から得られている。散歩時での挨拶や地元商店での買い物、地域ボランティアの受け入れ等で地域との触れ合いがなされている。昨年の事業母体開催の秋祭りでは、近隣の協力も得て大掛かりな催しが楽しめた。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族との話し合いの中で、GHでの取り組みや認知症の方への関わり方法をお伝えする事はあるが、地域の方へとなると、貢献はまだまだ努力が必要である。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度行っている会議での意見や情報・提案などを踏まえ、すぐに取り組めることは早急に、検討が必要な場合は上位会議で報告・相談して反映させて頂いている。	2カ月に1度、入居者・家族・区長・老人会会長・民生委員・市職員・地域包括支援センター職員の出席を得、リビングで開催されている。現状報告・行事報告・菜園活動報告・質疑応答が主な議題である。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の職員とも、介護保険上の事や加算に関する事、運営上に不明な点を相談させて頂くとすぐに回答を頂けていることから円滑な関係を構築させて頂いている。研修等の情報も積極的に頂けている。	事業母体が初めて開設したグループホームと言う事で、開設時に大きな協力を得た。研修の案内等の情報も頂け、また運営推進会議時にはフォローもして頂けている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはGH職員のみならず、法人職員も禁止意識は高い。フロア内エレベーターについては暗証番号制御されており、誰かと共に外出して頂くシステムになっている。	会議時や研修等で学び、身体拘束をしないケアの実践に努めているが、安全確保の為にエレベーターは暗証番号で制御されている。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の入り口には乱れた接遇があると考えている。言葉遣いから始まる多種の接遇面を職員皆が守る事がひいては虐待防止につながると考えている。虐待防止研修の参加実施されておらず、定期的な意識向上が課題である。	
				理念は契約時に本人・家族に伝えているとの事。来訪者にもホームの理念がわかるように、また日々職員が振り返る為にもわかりやすい場所への掲示が望まれる。
				地域の方も犬の散歩時にホームの前で足を止め会話をするなど、交流もなされておられる様子。今後は、小・中・高生の体験学習の受け入れ等も期待したい。
				家族の出席が少ない事から、運営推進会議の意義を伝え、会議録の配付などで多くの家族の出席に繋げられたい。議事録が少々見辛い様に感じた。
				毎回の運営推進会議への出席は有り難い事である。今後も直接足を運んで頂ける事で、実情を伝えながら益々の協力関係を築いていかれたたい。
				毎日の生活（支援）の中で当たり前になっている事がないか意識を持って、今後も身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいって欲しい。

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>一名の入居者が後見人制度を利用されている。弁護士との連絡もこまめに行っており関係性は円滑である。ただ、後見人制度そのものには学習不足は否めないことから、さらなる知識向上が求められる。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を踏まえた説明でご了承いただいている。料金や加算の変更についても即時入居者家族に連絡しご了解いただいている。疑問が出ればすぐにご連絡頂ける関係性も構築できている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>上記にあるように疑問・提案・苦情があればすぐに連絡頂ける関係性はある。事業所で回答が難しい場合は上位会議にて議題としてあげている。玄関先には意見箱を設置している。</p>	<p>日頃から家族との関係作りを中心に掛けており、来訪時には進んで声かけをしている。家族からの声の反映例として、カラオケの導入や下着の洗濯干しの改善があげられる。</p>	<p>入居者個々の様子は毎月“あおやま便り”でお知らせし、家族の安心をかつている。今後はより多くの家族の運営推進会議への出席を頂きながら、意見を反映した運営を目指されたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一回、フロア単位の会議とGH全体の会議を開催している。会議一週間前には職員個々に議案を提出してもらい、回答を集め、皆の意見が会議内ですぐに話し合える状況を作っている。正職員やパートの意見が同等に扱われるように上位職は心がけている。</p>	<p>会議の前に、全職員から意見や提案を提出してもらおう方策をとっている。この事により、職員は日頃から細部にまで気を配り意識を持つようになっている。改善の反映例として、洗濯ハンガーの色付により衣類の持ち主が判別し易くなったなど。</p>	<p>設立時から意を共にする職員で支援に携わってきた。今後も職員のチームワークで、意見や提案を出し合いより質の高いホームを目指して取り組んでいって頂きたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>春に人事考課を行っている。自己評価や直属上司による一次考課、管理上司による二次効果を行い、正当な評価が受けられるように取り組んでいる。考課表を示す事で職員自身も何をすべきことなのかを把握できる効果がある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>GHには学習委員を設置しており、自主研修・他事業所との合同研修を定期的に行っている。隣接している青山病院その他グループ事業で行われている参加可能な研修にも進んで足を運んでいる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>近隣GHとのつながりを持つために『グループホームの集い』に参加している。一ヶ月に一度は管理者・計画作成担当者の集まりがあり、入居者・職員の交流の月もあり、それに参加している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時のアセスメントはもとより、家族にも協力して頂き、その方の想いを教えて頂くような用紙を用意している。</p> <p>職員は入居者ごとの担当者を決めており、その方の想いが聞きだせるための馴染みの関係が築けるように心がけている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時では家族の状況・不安・要望を必ず聞き取っている。入居直後は特に家族への情報提供は欠かさない。上記にある入居者ごとの担当者が月に一度『あおやま便り』という手書きのお手紙を写真を添えてお渡ししている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居時には生活歴を聞き、その方の今ある状況を受け止め、その方に合った支援を提供するよう心掛けている。直後は絶えず家族と情報交換を行い、ケアの見直しや展開を相談している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>調理・掃除などの家事については積極的に協力して頂いている。自立支援の観点でもあるが、「共に力を合わせて暮らしている」ということを入居者にもメッセージとして表したいための取り組みである。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族にも協力して頂いている事は多い。おやつ作りや外出、レクリエーション参加などを行っていただいている事で家族との繋がりをいつまでも持たせていただけるように関わっている。家族もそれに応えて下さっている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近隣にお住まいの方が多いため、友人としての面会も多い。場所についても、日帰り外出の行事の企画の際には、「行きたいところ」をテーマに入居者・家族に聞き取りを行い、懐かしの場所に出向いたこともある。</p>	<p>家族の協力を得て、馴染みの美容室へ通われる方もおられる。「日帰り外出行事企画」では、入居者毎に懐かしの場所や行きたい店など希望を聞いて、居室担当者が出向いたりしている。</p>	<p>今後も、これまでの馴染みの人や場所等への関係継続の支援を引き続きお願いする。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>GH自体の建物が広くない事も功を奏してか、入居者は一応にしてリビングに出て来られる。中には言い合いになり職員が仲裁に入る事もあるが、にぎやかにも楽しくお過ごしいただけている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>過去に退居された方であっても、法人として、またGH職員として関わっていることは少なくない。病院が運営母体であることもあり医療面や、老健・デイ・小規模等の事業もグループ内にある事でいつまでも関係性を保持できている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に『自己決定を尊重し、その人らしい生活を支える』とあることから、ケアマネジメントはもとより職員全員が入居者本位のケアを前提に行動している。	入居者毎に担当職員を決めて、思いや意向の把握をよりつかめるように努力している。声に出ないサインをキャッチするよう努めている。情報は、会議等で全職員が共有出来ている。	担当職員配置制を活かして、今後も努力して頂きたい。心が通じ合う、また信頼し合う関係作りを大切にされたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時のアセスメントは生活歴や嗜好を教えて頂けるような用紙も用意している。直接の情報収集は当然行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ごとの担当者を設置しており、その担当者が会議にてその方の心身状況の変化が見られれば発表し、全員が把握できる状況を作っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回行うフロア単位の会議にて入居者のプラン見直しの会議を設けている。チームでのサポートを行うためにもほぼ全員からの情報発信をうながしている。	ケアプラン会議でプランの見直しをはかっている。家族に意見や要望を伺いながら、協力医・訪問看護師・職員等の意見を反映し介護計画を作成している。計画の見直しは3カ月毎に、長期目標6カ月・短期目標3カ月を掲げ作成している。	担当職員の“気づき”なども大いに活用し、達成感を味わえる身近な目標作りで、本人が生き生きと過ごせる介護計画の作成に取り組まれる事を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をきめ細かく記載するとともに、情報メモという支援記録と気づきが記載できる書類を通じて職員間の情報共有を図っている。それに基づくモニタリングを計画作成担当者は実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生み出されるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHの建物の一階部分が通所リハとなっていることから、本来使用する事のないPTに相談できる環境であり、そのPTもフロアに来てその対象者を直接に見たうえでの動作訓練を職員にできる環境である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用については関わりは弱い。近隣のイズミヤへ買い物には行くが、その他の近隣施設を利用できているとは言い難く、課題である。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に関わっておられた馴染みのかかりつけ医に引き続き診てもらっている入居者は数名おられる。ただ、訪問診療を利用している方が多く、受診・移動の手間などから訪問診療に切り替えられる方が多い。	馴染みの医院でも事業所の協力医療医院でも基本的に自由に選択することができる。協力医療機関以外へも有料で移送サービスを受けることができる。「情報メモ」を活用して家族と医師間の連絡を的確に行なっている。希望者は週一回の訪問歯科も受けられる。	2週間に1度、協力機関の医師の往診があり、看護師も毎週訪れバイタルチェック等健康管理をしている。ほとんどの方が何らかの病気をお持ちなので体調、薬の管理も含め安心して生活できるよう今後も支援を続けられる事を期待する。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週に一回、隣接協力病院の看護職員が入居者全員の病状把握・相談・指導に来設している。訪問診療に同席する事も多く、医療との連携は円滑である。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療法人が運営するGHである事から隣接の病院との連携は円滑である。医師・看護師のみならず、病院内の地域連携室からの情報は個人情報に留意しながらも行われ、入退院についてもスムーズに対応させて頂いている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に入居者及び家族に対して、当グループホームにおける指針の内容を説明した上で、入居者の重度化時及び急変時には重度化対応について話し合っている。また、GHでの生活継続が困難と思われる場合においても適切な施設への転居を提案させて頂くなど、入居者及びご家族の意向を踏まえながら話し合っている。</p>	<p>ターミナル会議などでも話し合っているが設備面において看取りまで行うことに無理があると考えられ、家族も最後は病院できちっとした管理の下でという希望があり医療面で充実したグループ内の病院をその選択の一つとし、事業所での看取りは行っていない。また、入居時に本人や家族にもその旨確認している。</p>	<p>介助を通して家族のような関係を築かれているので心情的には最後の日までという気持ちを職員は感じている。入居者は認知の程度はそれぞれだが出来るだけその人らしく過ごしている。その毎日の延長線上にどういいう終末があるのかを常に話し合い、家族とも共有しあい支援を続けられたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>隣接の病院内研修においても、看護師・病院ワーカーが参加するような急変時対応研修があり、GH職員はそれにも可能な限り参加している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時対応マニュアルを職員は周知していると共に、消防訓練も定期的実施している。今後は近隣の方が参加・協力して頂けるような訓練にしていく必要がある。</p>	<p>自主訓練と消防署と協働の訓練を概ね1年に1回ずつ行っている。道を隔てた場所に消防署がある。備蓄品はグループ内の青山病院にあるということで事業所独自には準備していない。地震などの時の避難場所は白鳥小学校であり、他にグループ内の病院や有料老人ホームが近くにあるので協力体制も出来ている。</p>	<p>今後もいろいろな想定での避難訓練を続けていき、災害に対しては重々の準備をしておきたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>接遇に関しては職員に、介護する上での根本的な姿勢を教育している。日々の中でも声掛け・プライバシーの保護を十分注意したケアを実践するよう努めている。</p>	<p>居室のドアにはほかの入居者が間違っして入室してしまうことがないように配慮されている。オムツ交換時のドア閉め等十分注意した支援を行っている。</p>	<p>認知症という病気は意思の疎通が難しい場面が多い。が、一人一人のそれまでの人生を知ることで見えてくる人格があることを大切に、今後も温かい支援を期待する。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>飲みたい飲み物の選択、衣服や野菜にかけるドレッシングの決定など、自己選択・自己決定できる環境では、必ず自分の意思を聞き、想いが反映できる生活づくりを行っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>理念に沿ったケアを皆が実践することと、だれが主人公なのか、を絶えず意識する事で入居者本位のケアが実践できている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>パジャマで過ごす、ということがないように入居者に無理なく声掛けし、ホーム内であっても人と会える装いで過ごしていただいている。もう少し出掛けるときは化粧などして頂いても良いのでは。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事に関しては開設以来、職員が意識して入居者を巻き込んでいる。それにより入居者も炊事場に立つことがステータスになっている。時折、炊事仕事の取り合いで入居者間で諍いになる事があるほどである。</p>	<p>業者からシニアメニューで材料が届き、野菜を切ったり味付けをしたり、入居者にできることはどんどん手伝ってもらい職員と一緒にテーブルを囲んでいる。正月、ひな祭り等の行事食も工夫し、米寿の祝いに赤飯を出したり手作りのおやつを出して喜ばれている。</p>	<p>訪問日はちょうどバレンタインの日で、食後のデザートにはチョコレートプリンがついていた。そこから楽しい話が始まり、職員も一緒に団欒しながら食事を取っていて、家庭的な温かい食事風景だった。マイ茶碗、お箸、湯呑も嬉しいことと感じた。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事については、委託業者がメニュー作成と食材配達を行っている。その為、栄養管理については問題がない。個人的な食事への留意については本人・家族と共に話し合って決めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアについては研修を通じて知識・技術の向上に努めている。また、訪問歯科の医師・歯科衛生士から教をいただくこともあり、それを実践している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>必要な方については排泄チェック表を作成し、その方に応じたケアを提供するようにしている。出来る限りいつまでも布パンツを使用し、トイレで排泄できるように職員全員が尽力している。</p>	<p>排泄管理は個別記録にて管理している。廃棄料金が必要となるがオムツの持ち込みもできる。完全自立の方が約半分おられ、何らかの助けが必要な方にはプライバシーを尊重しながら支援している。</p>	<p>食べることは一番の楽しみであり、排泄に関しての失敗が一番自尊心が傷つく事がらと言えるのでプライバシーを守った現在の支援を今後も継続されるようお願い。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給や食事形態の検討、医師・看護師への相談・受診、家族への相談などあらゆる視点から予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことのできる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>曜日・時間を決めず、その方に聞きながら、気分の良い時に入浴を楽しんでいただいている。ただ、体調変化のリスクがある為、対応できる職員の手が多い9時から17時頃の入浴にして頂いており、夜間入浴は実施していない。</p>	<p>湯は一人一人です入れ替えその都度消毒している。10時半から11時半、13時半から15時となっているが臨機応変に入居者に合わせておりほぼ週に2回は入浴してシャンプーも必ずし、便汚染や尿臭の問題があるときにはすぐに対応している。</p>	<p>菖蒲湯やゆず湯で季節感を楽しんでもらったり足湯を取り入れたり気持ちのいい入浴を楽しんでもらえるよう支援している。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は設けず、自然と自身から床について頂けるように心がけている。昼寝についてはあまり寝過ぎにならないよう30分～一時間程度で声かけしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解される方は多くないが、できる限りご自身の服用されている薬については説明を理解して頂くように心がけている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別プランには役割を位置付けていることが多く、前述したように「一緒に生活を作り上げている」ことを実感して頂けるように、お手伝いもどんどん行っていたい。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その方の想いに添えるような外出などの援助を行っている。家族の協力も得ながら、外出・外泊も行っている。ただ、思い立った時の要望には即座に答えにくく、重要性によっては日を改めて頂くなどの了解を得るようにしている。	近所の公園、図書館、スーパーまで散歩に出かけたり、花見、菊花展、紅葉狩りに時には家族も一緒にドライブに行く。銀杏拾い外食も楽しんでいる。	玄関前にベンチが置かれ、そばには菜園があり気候の良い時には日向ぼっこをしながらデイの利用者との触れ合いも楽しんでいる。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはGH内に個人での金銭持ち込みは禁止させて頂き、しかし外出時の買い物・飲食や外食については前もって立て替えなどで対応し、買い物を楽しめる状況にはするように努めている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話取り次ぎは随時行っている。手紙のやり取りは今まで例がないが、今年の年賀状を家族あてに全入居者に作成して頂けた。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓が大きく、駐車場を挟んで幹線道路に面していることから日当たりが良く、風も感じて頂けるような環境である。ホーム内は清潔を保つようにして、居心地が良い空間作りを行うように心がけている。	掃除は毎日職員がし、清潔な居間には座り心地の良い椅子が揃えられている。季節感を感じてもらえるように壁の飾りも工夫し、自分の作品等を置くことでそれぞれが居心地の良い場になっている。熱帯魚をみんなで世話をすることでその成長を入居者は楽しみにしている。	今日が何月何日か、皆で確認できるように日付カードが作られていた。熱帯魚を皆で世話することは癒してもらえる時間でもあり、このようなセラピーを取り入れることは素晴らしい生活空間作りにつながると思う。人間工学に基づいて作られた椅子や自分の作品等があることで感じる安心感を大切に考えて温かく安心できる雰囲気になっている。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード自体が狭いことから、人同士が関われる環境ではあるが、一人になれる場所は居室のみである。もう少し小グループで関われるセミパブリックな空間があればなお良かった。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者本人が使いやすいように自由にレイアウトして頂けるようにしている。タンスなどの家具も今まで本人が使用していた馴染みの物を置いて頂く事で、不安なくその場所を自分の居場所だと感じて頂くような取り組みを行っている。	布団、シーツは1週間ごとに入れ替えカーテンは防炎加工のものを使用している。掃除は職員が毎日している上でできる方は自分でも掃除を日課にしている。ほとんどの部屋にはカレンダーと時計が置かれていて、慣れ親しんだ家具が置かれている。	自分の部屋は、ほっとできる空間でその場所があるからまた大勢との関係も楽しめると言える。認知症になっても自分の城とも言える部屋を自分なりに片付けたり飾ったりできるように、これからは温かい支援を期待している。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は基本的にすべて自由な空間である。新聞を置き、雑誌を置き、パズルやドリルがある。居室には自分の趣味や好きな事に通じる物を置いて頂く事で、自分らしさ失わないようにして頂いている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない